

令和6年度 学校評価報告書

小樽市立朝里小学校
校長 岡田 貴幸

【自己評価】

数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価

- A: 100%以上
- B: 80%以上100%未満
- C: 80%未満

【学校関係者評価】

学校の自己評価に対し、以下の基準で評価

- ◎: 適切である
- : おおむね適切である
- △: 適切でない

1 本年度の重点目標

もっと ひとみキラキラ ～わかった！できた！もっとやりたい！～

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	「毎日、家庭学習(宿題・自主学習・読書)に取り組んでいる」と回答する児童を80%以上とする。	A	授業改善に伴い家庭学習に自ら取り組む児童が増加した。また、計画的な家庭学習への取組を促すことで、家庭学習への取組が自分事と捉えることができるようになってきた。後期児童アンケートでは、95%の児童が取り組んでいると答えた	◎
	特別支援教育の充実	特別支援教育に関する研修を2回以上実施する。	A	特別支援コーディネーターを中心に、通級指導教室の役割等、通級担当教諭たちによる全体研修を実施。他にも校内支援委員会で具体的な事例をもとにしたケース会議兼、事例研修を複数回実施した。	◎
	国際理解教育の充実	「外国語活動及び外国語の学習が楽しい」と回答する児童の割合を80%以上とする。	A	外国語ではデジタル教科書を使い、正しい発音や聞き取りなどを積極的に活用してきた。中学校のALTを活用し、触れ合いながら楽しんで外国語に関わっている。楽しいと答えた児童は80%だった。	◎
	理数教育の充実	算数・理科の学習が「わかる」「普段の生活で活用したい」と回答する児童の割合を80%以上とする。	A	「わかる」と感じているが、日常のテスト等に結果として現れていない児童が多い。そのため、専科教諭が放課後や休み時間等を活用して個別指導を行い、児童の苦手意識を取り除きながら、学習意欲を高めてきた。6年生で86%、5年生で94%と高い数値であった。	◎
	情報教育の充実	インターネットを活用する時は、「個人情報公開しない」「人を傷つける書き込みはしない」と回答する児童の割合を95%以上とする。	A	外部講師を招いた情報モラル教室、職員向けのAIに関わる研修を実施した。また、日常的に学習の中で各自の取組の共有を行うことで、他者意識を意識することができた。97%の児童が「しない」と回答。	◎
	キャリア教育の充実	勤労観や職業観を育む施設見学や講話などの体験的な学習を第3学年以上の学年で実施する。	A	総合的な学習・社会見学・修学旅行において、それぞれの目的・目指す児童の姿を明確にし、施設見学・外部講師による講話を全ての学年で実施した。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○授業と連携した家庭学習の充実を全校的な取組として行う。 ○授業の改善を行い、個別最適な学びと協働的な学びを全教員が実施できるように研修を進める。 ○インターネットモラルについて、家庭と連携し、スマートフォンの利用方法について指導を行う。また、中学校との連携も進める。 ○理科において、見方・考え方の定着を図る授業改善を行い、自身の生活と関連させた振り返りを行わせ、その中で生じる疑問や課題を次時につなげる学習指導に取り組む。 				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ○快活で明るい児童たちの日頃の様子は、とても良い。先生と楽しく触れ合っていることがわかる。 ○4月のアンケート結果がR6年度の評価と関連付けられている面があるので、年間を通した児童の成長の様子を総合的に評価することを考えることが必要と思われる。 				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「すすんで挨拶・ありがとう、素直にごめんなさいが言える」と回答する児童を90%以上とする。	A	全職員が温かい言葉掛けを意識して、日常の指導にあたった。児童間のトラブルがあった際には、丁寧な対応を心がけ、自らの行動を振り返らせるとともに、謝罪の場面を設定してきた。また、児童の挨拶運動など自主的な取組を進めてきたことで挨拶への意識が高まってきた。94%の児童が言えると回答した。	◎
	ふるさと教育の充実	地域の教育資源や人材を活用したふるさと教育が楽しいと回答する児童を80%以上とする。	A	低学年での生活科や、3・4年生の総合・社会において、校区内の商業施設見学やバス見学、浄水場見学など、朝里についての学習に取り組むとともに、地域の「小樽・あさりのまちづくりの会」の方を中心に講話をいただき、朝里の良さに気付く児童が増えてきた。88%が楽しいと回答した。	◎
	読書活動の推進	「読書が好きだ」と回答する児童の割合を80.0%以上とする。	B	図書館の利用率を上げるための取組を進めたことで、利用率が上がった。また、本を借りる児童が増加した。また、ももとの利用率の低さや読書が好きだという児童の低さから、読書に対する意識作りの改善を図る会活動と連携して進めてきた。72%の児童が好きだと回答。	◎
	体験活動の推進	外部人材等を活用した体験的な学習が楽しいと回答する児童を80%以上とする。	A	6年生の知産志食や4年生の福祉体験など、外部指導者による体験的な学習において、楽しむとともに食育や福祉について深い学びにつながった。92%の児童が楽しいと回答した。	◎
	コミュニケーション能力の育成	考えながら聞き、自分の考えを整理していると回答する児童を80%以上とする。	A	日常生活において考えながら聞くことを大切にしよう全校的な指導を行ってきたが、8月より更なる改善をするよう全職員で意識を高めて取り組んだ。日常の生活や授業において、職員も児童も、より話の聞き方や考え方の改善の意識を高めた。91%の児童がしていると回答した。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	全児童が、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答する。	C	いじめアンケートをもとに、個別面談の実施や、丁寧な対応を心がけて取り組んだ。また、数値の低かった高学年を対象に、「自分の大切さを実感させる教室」を道警少年課の外部講師に招き実施した。93%の児童が良くないと回答したが。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○生活ルールにおいて、守られていない事項があることから、全教職員で課題の精査、共通認識を図り、統一した指導を行っていく。 ○読書活動を推進する取組を図書係を中心に企画、実施し、読書習慣の定着を図っていく。 ○いじめについて話し合う機会を各家庭で設定するよう啓発し、各家庭の様子を共有することで、児童を見守る全ての大人で成長を支えていく意識作りを行う。 ○授業内で、協働的な学びの充実を図り、他者意識を高める。 				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のことに感心の高い子どもたちを心強く感じる。 ○図書館の整理も大変良いと思う。 ○いじめに対しても先生方の最善の対応を感じる。いじめの防止の項目は全員が「いじめはよくないことだ」と言えるように、指導を続けてほしい。 				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	自分の課題に向き合って体力の向上を目指していると回答する児童を70%以上とする。	A	昨年度の課題であった瞬発力を高めるために、体育の授業の際に、全校的に縄跳び運動に取り組んできた。休み時間にも縄跳び内に取り組む児童が増えてきている。今年度の課題は走力であったことから、高学年の体育専科を中心に授業の最初に走を取り入れた準備運動に取り組み始めた。目指していると87%の児童が回答した。	◎
		食育の推進	全学年で食に係る指導・啓発を家庭と連携して行う。	A	給食担当を中心に、日々のメニューについてクラスルームで共有し、各学級で指導するよう取り組んだ。朝ご飯の重要性を生活リズムアンケートの結果をもとに、各家庭に啓発した。	◎
		健康教育の充実	スクリーンタイムの約束を家族と話し合っていると回答する児童を90%以上とする。	B	養護教諭を中心にスクリーンタイム週間の設定を行い、2回取組を行った。結果をもとに、各家庭で話し合いの場を促す事で、各家庭で約束事を決める様子も見られた。児童が74%、保護者が71%、決めていると回答した。	◎
改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ○スクリーンタイムに関わって、各家庭で具体的な話し合いができるように「おたるスマート7」と関連させながら更なる啓発を行う。 ○食育について、栄養教諭との取組を実施していく。 ○高学年での「走」の取組をも、より良い方法に改善するとともに全校的な取組へとつなげていく。 				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ○食育の範囲は広いと思うので、学年ごとの目標・課題を作っていく必要がある。 ○児童たちはのびのびとすこやかに成長してくれていると感じているが、スマホの使用制限は子供だけではなく現代の課題であり、家庭の協力が必要である。 ○食育に関しては、家庭が大きな役割を担う。学校だけでは対応する事は難しい側面が多い。 				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	家庭学習・学校での授業や生活を話題にして共有し、励ましていると回答する家庭の割合を80%以上とする。	A	継続的に、重点目標を通信等で家庭と共有し、学校運営協議会においてもその様子を伝えることで、成果と課題を再確認してきた。実施しているという回答が98%で昨年度の88%から向上が見られた。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	CSを活用し、教育活動における家庭・地域との協働の場を全学年で行う。	A	全校で、朝学習や放課後の読み聞かせ活動、安全マップ作り、水泳学習の見守り、スキー学習の補助を実施した。	◎
改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ○今年の取組を継続的に行うとともに、家庭学習の目的や具体例を示すなど家庭との連携を整理・深化させ、家庭学習の更なる改善を図る。 ○CSに依頼する内容を整理し、年度を見通した設計を行い、依頼していく。 				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ○地域社会と児童は、地域行事等や見守り活動等、日常生活の中で接点が多く、恵まれた環境であると感じている。 ○家庭学習の取組について全校で取り組む内容の系統性を整えて学校がしっかりと周知し、学年で統一して行っていく必要がある。 				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	朝里小中学校の教職員が小中一貫を見据えた具体的な取り組みについて検討する機会を年3回以上実施する。	A	全職員が参加する、小中連携合同研修会を3回実施した。総合的な学習のカリキュラムについて連携を進めた。また、お互いの公開研に積極的に参加し、児童・生徒の実態を把握することができた。	◎
		教育環境の整備・充実	学習で、タブレットを活用して自分の考えを広げたり深めたりしていると回答する児童を90%以上とする。	A	研修部を軸に、令和の日本型学校教育を進めることで、個別最適な学びと協働的な学びの取組が少しずつ広がり、実践者が増えた。93%の児童がしていると回答した。	◎
		教職員の資質・能力の向上	全学年で計6本以上の研究授業を行う。また、ICTの有効活用等、教職員の資質・能力の向上へ向けたミニ研修会を3回以上実施する。	A	複線型授業を公開する週間を設定し、参観しあうことで理解を深める取り組みを行った。公開授業数は18本、また、研修係を中心に具体的に活用できるアプリを紹介し、体験するミニ研修会を3回実施している。	◎
		学校運営の改善	在校等時間から、条例で定める勤務時間を減じた時間の全職員の月平均時間を18時間以内とする。	C	午前授業の日を月1回設定することや会議の精選等を積極的に行うことで、達成職員の割合が、昨年度の50%から55%に改善した。	○
		学校安全教育の充実	外部講師による交通安全教室、情報モラル教室、PTAと連携した交通安全見守り活動を行う。	A	低学年に外部講師による交通安全教室を実施。全学年を対象に情報モラル教室を実施。教頭マネージメント支援員を中心に、安全マップ作りを、児童、教職員、保護者、CSで行った。また、PTAには、交通安全見守り活動を15回程度行った。	○
改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習のカリキュラムを整え、外部人材の活用を整理することを進めている。9年間を通した地域学習を全職員で理解を深め、取り組めるよう中学校区で共有を図る。 ○「令和の日本型学校教育」の実施に向けた授業改革を全職員で行う。 ○業務内容や教育活動の精査を行い、それぞれの目的に正対した業務推進・教育活動の実施を効果的に行っていく。 				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ○勤務時間の削減は難しい面も多くあるが、諦めずに頑張ってください。 ○職員のノー残業デーへのチャレンジがあり、学校内の努力が感じられる。教育環境も良いと思う。交通安全への取組は特に良い。 ○昔(自身がPTA役員の時)と比べて、決まった人しか活動していないように見受けられる。もっと割り振りをして地域のハトロールなど事務局が中心に動けば、他のPTAも動きやすくなるのではないかと感じる。 ○月1回の午前授業の目的やその成果について検討し、次年度へつなげていただきたい。 				
社会教育に関連する目標(目標6～8)		「学校支援ボランティア」を活用した教育活動を全学年で実施し、「おたる地域子ども教室」を複数回実施する。	A	PTAから「学校支援ボランティア」を募り、プール学習の陸上監視を全学年で実施し、たくさんの大人の目で、児童の安全を見守る事ができた。「おたる地域子ども教室」を8回実施し、多くの児童が楽しみながら参加していた。	◎	
改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ○「地域子ども教室」の参加を促す啓発を行うと共に、保護者ボランティアの拡充も目指していく。 ○「学習支援ボランティア」の活用を、年間を見通して教育課程の中に位置づけていく。 				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ○PTAの取組が少しずつ進んでいるように思う。学校からの地域社会への情報発信もとても良い。 ○学校現場は本当に大変な中、朝里小の教職員はとても頑張って学校を良くしてくれていると感じる。毎年メンバーは変わるが、根本的なものは管理職が変わっても受け継いでほしいと思う。 ○PTAが今年度から始めた、全員が参加する「学校応援係」の取組は大変良い。 ○PTAや地域住民が協働する、児童の登下校の見守り活動はとても良い。 				